

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	高橋 憲祐
指導教員氏名 岡田 幸彦				
論文題目				
負債の再交渉を考慮した最適資本構成の考察				
論文概要				
<p>企業の資金調達手段は、株式と負債の2種類に大きく分類される。企業価値を最大化するための最適資本構成に関する問題は、Modigliani and Miller (1958)以降盛んに議論されてきた。本稿では、企業が経営破綻に陥った際に債務の減免を求めた再交渉を行うという仮定の下での最適資本構成について考察した。負債の再交渉を扱う既存研究では、企業の利払いがその時点での情報にのみ依存するという仮定を置いている。しかし、一度減免された債務を再度復活させるのは現実的ではなく、その意味で現在の状態にのみ依存するのは不自然である。</p> <p>そこで、本研究では倒産や清算の閾値と利払いを内生的に求める Leland(1994)の枠組みを利用し、その上で企業の利払いが過去から現在までの資産価値の最小値に依存するという仮定を置いた。そして、その仮定の下で求められる負債価値と株式価値からなる資本構成をシミュレーションにより算出した。計算結果は Leland(1994)と Fan and Sundaresan(2000)をベースとしたものと比較する。Leland(1994)は信用リスク評価の構造型アプローチを用いて、企業の最適資本構成を求めた代表的な研究である。本研究のモデルは Fan and Sundaresan(2000)と同様に負債の再交渉を考慮し、その上で最適資本構成を求めたが、資産価値は過去の最小値の情報を保存する経路依存性を持つと仮定しているところに特徴がある。このモデルで求めた資本構成と、既存研究をベースとしたモデルで求めた資本構成の間に差がどれだけ生じるのかを見た。その結果、本研究における最適な負債比率は既存研究と比べて低くなるという結果になった。</p>				
審査日	平成 27 年 1 月 30 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(商学)	岡田 幸彦	
副査	筑波大学 教授	工学博士	岸本 一男	
副査	筑波大学 助教	博士(経済学)	竹原 浩太	